

片山潜著作集

第三卷

片山潜生誕百年記念会編

片山潜著作集

第三卷

片山潜生誕百年記念会編

(第三回配本)

昭和五年五月一日 初版印刷
昭和五年五月五日 初版発行

定価 八百五十円

編集・発行者

片山潜生誕百年記念会

印
要
不
検

印刷者 竹内常治朗

東京都渋谷区代々木三丁目三九

東京都新宿区若松町一二八加藤製版氣付

片山潜著作集 第三卷

発行所

片山潜生誕百年記念会

発売所

東京都千代田区
神田小川町三ノ八
株式会社
河出書房新社

振替口座東京一〇八〇二番
電話東京(29) 三七二一番

落丁本・乱丁本はお取替え致します

題 字

三浦鎮太郎

監 修

平野義太郎・木村 毅

編集委員

大原 慧・塩田庄兵衛

隅谷喜三男・長谷川 博

藤井 松一・松本惣一郎

宮川 寅雄・山辺健太郎

渡部 義通
(五十音順)

加藤 佑治
(事務局)



序

片山潜は、一八五九年（安政六年）十二月三日、岡山県南条郡羽出木村の農家に生れ、全生涯を労働者と人民の解放のためにささげ、一九三三年十一月五日、コミンテルンの執行委員として、モスクワで七十四歳のながい革命家の生涯をおえた。

一九五九年は、片山潜の生誕の年から数えて百年にあたるわけである。

いうまでもなく、片山潜は、日本が生んだ人民解放の偉人であり、国際的な労働運動・社会主義運動・世界平和運動のたぐいなく優れた指導者であった。その生誕百年を、国民的規模で記念する年にあたり、われわれは多くの人々の協力によってその主要著作を上梓し、不朽の業績を顕彰することができたことを心から喜びたい。

片山潜のひとと事業を記念するために、日本のみならず、世界諸国民が、それぞれ記念の行事を開催する。ソ連邦において、厳密な校訂の下に「片山潜著作集」が刊行されるのとあいまって、わが国でも、本著作集三巻が公刊の運びになったことは、きわめて意義ぶかい。

従来、片山潜の在米時代・在ソ時代の業績は、かぎられた範囲でしか紹介されてこなかったが、今度の生誕記念を前にして、それらの時代の著作・伝記・資料は、にわかに豊富になった。それは、とくにソ連邦共産党ならびにマルクス・レーニン研究所・科学院東洋研究所の協力によるものがきわめて多大であった。本著作集の刊行は、その意味

で、片山潜生誕百年に際しての国際的学問・文化交流の大きな成果といつてよい。かつまた、本会はこの好意にたいして深甚の謝意を表する。

本著作集は、三巻よりなり、第一巻は片山潜の主要著書と未発表の自伝を収め、第二巻は、在日時代を中心に在米時代をふくめてモスクワに赴くまでの著作・論文を収め、第三巻は、在モスクワ、コミンテルンの活動に従事した晩年の論稿を翻訳収録した。未復刻・未翻訳の諸論稿と主要著作を網羅し、これによって、ほぼこの大革命家の業績の全貌をあきらかにするとともに、日本および国際人民解放運動の歴史的資料を豊かに提供しえたことは喜びにたえない。

ちなみに、この著作集の編集は、片山潜生誕百年記念会の一事業として、その編集委員会があたった。なおこの選集は、この三巻をもつて一応完結したものとするが、これに洩れた諸編は期をみて刊行を続けたいと思つてゐる。

一九五九年十一月

片山潜生誕百年記念会

会 長	三浦 鎮太郎
副会 長	平野 義太郎
副会 長	木 村 毅
事務局 長	小林 輝次

凡 例

- 一 本著作集の校訂に当っては、原典と照合して厳密を期した。文字の異同については読み易いもの、字義の適切なもの、文法的に正しいものを採ることにした。
- 一 論文は発表年代の順序に掲載し、その年代を各論文の柱および最初の論文の題名の右肩につけた。
- 一 原典が日本文のものは旧かなづかいをもちいたが、旧漢字は使用しなかった。
- 一 原典が外国文でかかれたものは、翻訳にあたってすべて当用漢字、新かなづかいにした。ただし原典が外国文でもすでに翻訳発表され日本の運動に一定の影響を与えたものは、原典が日本文のものと同様のあつかいをし、論文の末尾にその掲載誌名を付記した。
- 一 原文にある振仮名・傍点・傍丸等は原則として削除したが、とくに外国の地名・人名などの漢字で読みにくいものは振仮名をのこすことにした。
- 一 編者注は文中に〔 〕カッコに、原注は（ ）カッコに、それぞれ八ポイント活字で入れた。

目次

序

凡例

一九三二年

ワシントン会議の総決算と極東の情勢（極東民族大会第一回大会演説より）……………一

シベリアにおける日本の兵士にたいする日本の老革命家の心からなる勧告……………九

日本の経済生活と労働運動……………一八

コミンテルン第四回大会における執行委員会の報告にかんする討論……………二六

一九三三年

日本における資本攻勢とプロレタリアートの防衛……………三

一九三四年

神戸における海員のストライキ……………六二

日本のメーデー……………六六

日本における朝鮮人労働者……………七三

コミンテルン第五回大会における演説（民族植民地問題にかんする討論）	二
部落解放運動	九〇
一九二五年	
日本の協同組合運動	一〇五
一九〇五年のロシア革命と日本	一三〇
日本における普通選挙権	一三三
一九二六年	
日本の労働農民党	一三八
一九二七年	
ブリュッセルの反帝国主義大会	一四一
ソビエト・ロシアの最初の印象	一四九
ジャパン・アドバタイザー記者に与へて余が日本帰国説に対する妄を弁す	一五八
一九二八年	
日本における総選挙——友人への忠告——	一六三
日本における醬油労働者のストライキ	一六四
日本における革命的諸組織の解散	一六六
レーニンについて	一六八
中国革命への宣言（コミンテルン第六回大会——植民地における革命運動の諸問題にかんする討論より）	一七三

一九二九年

日本における清算派的傾向……………	一七
ファシストの魔手に山本宣治代議士慘殺さる……………	一八
官憲に虐殺された同志渡辺政之輔……………	一七

一九三〇年

タタール共和国の十年祭……………	一六
------------------	----

一九三一年

大戦後における日本階級運動の批判的総観……………	一〇
日本帝国主義に反対する日本のプロレタリアート……………	三七

一九三二年

我日本共産党々員諸君日本救援会々員諸君及び革命的労働者貧農諸君に告ぐ……………	三二
日本の情勢と日本共産党の任務……………	三九
一九三二年六月十二日 国際連帯反戦デーへの挨拶を送る……………	二〇
日本の労働者農民諸君に告ぐ……………	二五
一九三二年アムステルダム反戦世界大会における演説……………	二六
アムステルダム反戦世界大会と日本の労働者……………	二六
日本におけるテロルと日本赤色救援会……………	二六
ゴリキー文壇生活四十年記念への挨拶……………	二七

日本赤色救援会第三回全国大会に向って深甚の敬意と祝賀の挨拶を送る……………二七一

一九三三年

日本におけるマルクス主義の誕生と発展の問題によせて……………二七五

国際連帯闘争デーへの挨拶……………三〇四

八月一日と日本共産党の任務……………三〇五

アンリ・バルビュスおよびロマン・ローランへの手紙……………三〇九

日本における一九一八年の米騒動の十五周年によせて……………三一二

世界無比の裏切者佐野鍋山を排撃せよ！（岡野・山本と共同執筆）……………三一二

十月革命と日本の勤労者……………三三六

日本における農民闘争……………三三八

解 説……………三三五

付 録

片山潜年譜……………三九三

1922年



1922年1月極東民族大会議事録
“Der Ferne Osten” (極東)

〔一九二二年〕

ワシントン会議の総決算と極東の情勢

(極東民族大会議事録「デア・フュルネ・オステン」一九二二年一月)

一

ワシントン会議は、極東の問題が、現在、帝国主義的世界政策の焦点になっていることを証明している。豊富な資源と安い労働力のみちあふれている中国、資源にめぐまれた朝鮮、蒙古、極東共和国とシベリアは、世界帝国主義列強の渴望のまどである。かれらは、資本主義制度を安定させるために、商品や資本の市場として極東諸国を手にいれ

たいのである。

ワシントン会議は、太平洋を支配するための新しい帝国主義世界戦争がおこることを、一時ひきのばした。しかしこの延期は、極東諸民族の奴隷化という犠牲においておこなわれたものである。ワシントンでは、朝鮮の苦悩はすこしも問題にならなかった。インド、エジプトを奴隷化しているイギリスは、一九一一年、イギリスの植民地支配の確保を日本が保証することと

引きかえに、日本の朝鮮併合を承認した。フィリピンを略奪し、中国を略奪するアメリカも、日本の朝鮮侵略を支持した。中国南部の鉄道に特殊な利害關係をもつフランスは、帝政ロシアの崩壊後は日本とむすんでいる。ワシントン會議の決定の実現として、日本の極東共和国にたいする進撃が開始された。

二

一九〇五年帝政ロシアの敗北は日本の朝鮮支配を実現した。アメリカは一八八三年に朝鮮とむすんだ条約で、朝鮮の独立を保証しているにもかかわらず、日本の朝鮮併合を承認している。このように、日本の朝鮮併合は列強の了解のもとにおこなわれたものであった。全朝鮮を戦争状態にする戒嚴令下におき、あらゆる新聞を禁止し、朝鮮の最良の土地を旧地主から没収したのである。東洋拓殖株式会社は、朝鮮人から略奪した土地に、日本人の地主と資本家とをひきいれ、朝鮮人をその奴隸にした。朝鮮人には、その支払能力以上のきびしい租税を課した。農業生産物を日本に輸出するために、農業生産は略奪同様に吸いとられた。一九一六年四二〇〇万円だった農産物の日本への輸出が一九一九年には一億三七〇〇万円になった。一九一七年には朝鮮から日本へ二七〇〇万円の米を輸出したが、一九一九年には一億一三〇〇万円になった。

朝鮮の勤労大衆は飢餓水準の生活をしている。朝鮮民族の肉体的な破壊をやろうとする日本の略奪者は、また、朝鮮人を低級な地位においておくために学校の設置を禁止している。

一九一九年の三月、虐政と弾圧にたえかねた朝鮮人民は、独立を要求して立ちあがった。いわゆる教養ある人士の指導する消極的な反抗は惨酷に鎮圧されてしまった。しかし、朝鮮の勤労大衆は、この流血の経験によって、革命的な闘争にすすむことを教えられたのである。

ワシントン会議は、四つの吸血鬼の同盟の名で、日本の強盗政策への連帯を表明した。抑圧された大衆は、全世界の被抑圧民族と同盟した国際プロレタリアートの勝利だけが、かれらの自由と独立とを保証するものであることを知ったのである。

三

四億の人口をもつ中国は、事実上列強の植民地であるが、ワシントン会議はこの状態を承認した。中国の隷属は、一八三九〜四一年のイギリスとの阿片戦争にはじまり、以来ヨーロッパ、アメリカおよび日本が侵入してきた。一九〇一年の北清事変は、中国内陸へのイギリス、ロシア、日本、ドイツ、アメリカの公然たる侵入と、中国を各国の勢力範囲に分割する合図になった。

一九一一年の辛亥革命までは、帝国主義の強盗たちも、反民族的満州王朝を支持していたが、革命後は自分の従順な手先きとして中国の軍閥を支持している。日本の帝国主義は、一九一四年の戦争でヨーロッパとアメリカの資本が一時的に中国から退却したあとをおそい、とくにドイツが山東省と青島にもっていた諸権益を手に入れた。戦争中に日本は、最後通牒のかたちで中国に強要した二十一カ条で、政治的、金融的、軍事的に中国を完全に支配しようとした。

ヴェルサイユ会議で日本との協調に成功しなかったアメリカは、中国にあるアメリカのシンジケートをつうじて、全土を支配する経済政策をおこなおうとしている。その金融シンジケートは、中国のあらゆる企業を金融的に支配するための国家独占を獲得して、中国土着産業の息の根をとめようとしている。

日本が二十一カ条を完全に行行できなかったことと、アメリカ・シンジケートの組織が不成功におわったのは、帝国主義者同士の競争と、他方では中国人民の反対、華南の革命闘争のためであった。ワシントンでは、アメリカはふ

たたびこのシンジケートを再建しようと試みたのであるが、四カ国協定によって日本の孤立化に成功したため、この見通しはこれまでもよりもよくなった。

ゆたかな発展の可能性をもつ中国は、現在買収された督軍たちによってずたずたに引きさかれている。満州および華北は日本の手先きである張作霖が支配している。北京では外国の使節団が政局の主人公である。中国の工業、森林その他の租界は外国人の手中にある。

自己の民族的生存のために闘争をおこなっている革命的な華南は、華北の軍閥側からの不断の脅威のもとにおかれており、全国における民族的・民主主義的革命的勝利なしには、その地位の永続的な強化は期待できない。

中国の農民、中国の労働者および苦力は、外国資本の奴隷である。中国民衆は自分自身の運命の支配者ではなく、東京、ワシントン、ロンドンおよびパリに従属している。かれらは野蛮な中世的支配から解放されることができない。なんとすれば、かれらの貧困と弱さと非組織性とが、帝国主義的略奪の源であるから。

ワシントン会議は全世界のまゝに列強の政策の真実の意義をばくろした。また中国の勤労大衆は、その民族的ならびに社会的解放のための闘争において、コミンテルンの指導のもとに、帝国主義にたいしてすでに決定的な闘争を開始した全世界の勤労者と被搾取者以外に、他の同盟者を期待することはできないのである。

四

ヴェルサイユ会議において、自分ひとりで蒙古を搾取するか、それともこの使命をアメリカとわかつか、を決定することができなかった日本帝国主義は、蒙古を国際銀行トラスト借款団の勢力範囲から除外することによって、自己の戦利品として蒙古とその富とを搾取し略奪する特権を獲得しようと努力している。



イルクーツクの極東民族大会
の代表宿舎前で

日本帝国主義は一九一九年のはじめおよび一九二〇年の終りに、その手先ども、すなわち「安福」派の指導者およびその蒙古地方の全権代表者マリンキー・スーおよびまた他の手先たる男爵ウンゲルンをつうじて、積極的に蒙古に進出した。この男爵ウンゲルンは、日本のために蒙古の民衆を奴隷化し、蒙古を勤労者の最初の共和国たるソビエト・ロシアにたいする日本帝国主義の闘争のための地盤に転化することを目的としているのである。その後における日本軍国主義の蒙古への侵入は、その忠実な代理人たる華北軍閥張作霖をつうじて遂行された。張作霖の蒙古遠征、張作霖と日本の百万長者大倉を大株主とする張作霖銀行を組織せんとする彼の計画、ツィ・ツバ・シャハイ省の督軍ツァウ・フン・ディーを無能だとして張作霖の手先きツィン・チュン將軍と更迭すること、および蒙古にたいして新たな冒険を中国に教唆すること——これらが、蒙古にたいする日本帝国主義の進撃のつぎの段階のもっとも特徴的な兆候である。

友誼的なソビエト・ロシアの赤軍との共同行動による武装闘争によって、日本帝国主義の手中の道具であるところの外国の抑圧者、すなわちロシアの白衛軍ならびに中国の軍閥の抑圧から自己を解放した蒙古は、ついに独自に自己の運命を決定する可能性を得たのである。蒙古と中国民衆のあいだの友誼的關係は、国際帝国主義者ならびに華北の軍閥によってじゅうりんされているところのかれらの共通の利害によってむすばれている。

蒙古の民衆は、帝国主義者のワシントンにおける陰謀が、かれらの生死にかんする利益を破壊するためにむけられているのだということを知っている。